

本件は、大阪府政記者会、大阪市政記者クラブ、吹田日刊記者クラブに同時資料提供を行います。

報道関係各位

生きているミュージアム NIFREL

《生きもので春にふれる》「春の風物詩・シロウオ」を 期間限定で展示開始しました



大阪府吹田市「EXPOCITY」の生きているミュージアム「NIFREL(ニフレル)」では、2022年3月3日(木)より、館内1階「わざにふれる」ゾーンにて、シロウオ(全長約7cm、約300匹)を、4月上旬までの期間限定で展示開始しました。

シロウオは、全長7cm程度のハゼの仲間で、体がほぼ透明のため背骨などが透けて見えます。沿岸域の浅い海に生息していますが、早春になると河口域に集まり、潮が満ちる時の流れに乗って川を遡上し、岩場で産卵します。早春に姿を見せることから「春を告げる魚」とも呼ばれており、古くから早春の味覚として広く食用に利用されています。

展示中のシロウオは、和歌山県湯浅町の協力を得て、同町と広川町の間を流れる広川にて3月2日(水)に採集したものです。湯浅町では、古くからこの地に伝わる「四つ手網漁」と呼ばれる伝統漁法で、毎年2月中旬から3月下旬頃にかけてシロウオを漁獲しています。「四つ手網漁」は、四角形の網を川底に吊るして、シロウオの群れが網の上を通過した時に一気に網を引き上げて掬いとる漁法で、同町の「春の風物詩」になっています。また、同町では「紀州湯浅のシロウオ月間」を3月21日まで開催中で、シロウオに関連する写真展や写真コンテストなどが行われています。ニフレルでも館内モニターで四つ手網漁の様子などを写真や動画を放映し、湯浅町と協力してシロウオの春の風物詩としての側面や、人と自然のつながりを発信します。



四つ手網漁の様子

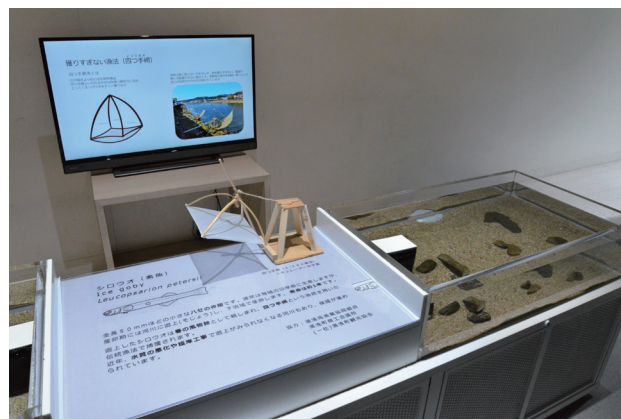
シロウオは、春に卵からふ化し、翌年の春に繁殖して一生を終えるため、採集できる時期などが限られており、さらに体が傷つきやすいことから飼育展示が難しく、その姿を見る機会も多くありません。なお、ニフレルでシロウオを展示するのは、昨年3月に引き続き2回目です。

【本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします】

NIFREL(ニフレル) PR・広報担当 田井、西前
TEL: 06-6876-2204 FAX: 06-6876-2235 MAIL: nifrel.pr@nifrel.jp



【シロウオの展示について】



《展示期間》 2022年3月3日(木)～4月上旬予定

《展示場所》 1階「わざにふれる」ゾーン

《展示数》 約300匹

《お問い合わせ》 ニフレルインフォメーション TEL:0570-022060(ナビダイヤル)

※生きものの状況により予告なく展示を変更または中止をする場合があります。

《生きているミュージアム『NIFREL』施設概要》

名 称 NIFREL (ニフレル) (館長：小畑 洋)

運 営 会 社 株式会社海遊館 (本社：大阪市港区、社長：三輪 年)

所 在 地 吹田市千里万博公園 2-1 EXPOCITY 内ニフレル

営 業 時 間 平日 10:00～18:00、土・日 10:00～19:00 (最終入館は閉館の1時間前まで)

※状況により変更する場合があります。

休 館 日 年中無休。但し、年に1回設備点検のための臨時休業あり。

施 設 内 容 8つのゾーン【いろにふれる、わざにふれる、およぎにふれる、WONDER MOMENTS、かくれるにふれる、みずべにふれる、うごきにふれる、つながりにふれる (生きもの約150種・約2000点)】

ピクニックカフェ「EAT EAT EAT」(200㎡・112席)、ミュージアムショップ「NIFREL×NIFREL」

入 館 料 金 大人 (16歳以上)・高校生 2,000円、小・中学生 1,000円、幼児 (3歳以上) 600円

交 通 大阪モノレール「万博記念公園駅」徒歩2分

駐 車 場 約4,100台 (EXPOCITY全体用駐車場)

構 造 規 模 S造 (一部SRC造、RC造) 3階建

建 築 面 積 約3,500㎡ (約1,060坪)

延 床 面 積 約7,200㎡ (約2,180坪)

※ 公式ホームページ

<https://www.nifrel.jp>

※ ツイッター

https://twitter.com/nifrel_official

※ Facebook

<https://www.facebook.com/nifrel.jp>

※ インスタグラム

https://www.instagram.com/NIFREL_OFFICIAL